戸田市の教育改革の取組（令和7年度版）

■：教育委員会の取組　【新】：新規事業
★：産官学との連携による取組　【拡】：拡充事業

やさしいまちに、なりたい。

教育改革の重点　産官学との連携による戸田市SEEPプロジェクト

AI（人工知能）では代替できない力やAIを使いこなす力
「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知（社会情緒的）スキル」の育成を目指す

第4次戸田市教育振興計画 PDF資料と紹介動画リンク

※SEEPプロジェクトは、この計画の理念を具体化した取組です。

S：Subject　E：EBPM（Evidence-Based Policy Making）　E：EdTech（Education×Technology）　P：PBL（Project-Based Learning）

Subject

教科の本質を捉えた授業改善をはじめ、すべての取組を学びに結びつける

主体的・対話的で深い学び推進のための「戸田型授業改善モデル」
本市独自のルーブリックを核として多角的な授業改善に取り組む

「子供たちに身に付けさせたい力」は何か
- ●各学校における具体的な教育目標の設定と教師の意識改革
  - ■具体的な教育目標を設定した「授業力向上プラン」の作成
  - ■本市で作成した「資質・能力ルーブリック」の活用

子供たちが何を学ぶか
- ●基礎的な知・徳・体の効果的・効率的な習得
- ●産官学との連携による新たな学びの実践

子供たちがどう学ぶか
- ●アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進
  - ■本市作成「戸田市版アクティブ・ラーニング指導者用ルーブリック」の活用促進（学校訪問時の指導、研究協議会での活用等）
  - ■県及び全国学力・学習状況調査等の分析結果のフィードバック
  - ■学校訪問改革、校内研修の活性化
  - ■県学力調査や教員調査によるルーブリックの検証、改善
  - ■教員研修の高度化（お茶の水女子大学、埼玉大学、国士舘大学との連携）
  - ■ユニバーサルデザインに基づく学級経営と授業実践
  - ■家庭学習及び放課後補習学習支援（民間の塾等への委託）
  - ★共栄大学：教員研修のサポート等
- ●本市作成「学級経営リフレクション」の活用促進
- ●文部科学省「教育研究開発事業」に係る新たな教育課程の研究【新】

EBPM

「授業」「生徒指導」「学校・学級経営」を科学する
➡ EIPP（Evidence Informed Policy and Practice）

「戸田市教育政策シンクタンク」の設置

エビデンスベースでの政策づくりを自立的に推進
- ■教育総合データベースの運用【拡】
- ■授業がわかる調査、教員質問紙調査等の分析
- ■多様なスキルを持った教育行政プロや教育 DX人材の採用
- ■学校現場におけるデータ利活用推進
- ★外部アドバイザリーボード：大学教授や弁護士等の有識者で構成される諮問金議を開催

外部との共同研究等
- ★国立教育政策研究所：教育施策の効果検証
- ★東京大学：ＳＥＳと学力調査等の分析
- ★国立情報学研究所、東京理科大学、筑波大学、東京都立大学、（一社）教育のための科学研究所：リーディングスキルの視点からの授業改善
- ★慶應義塾大学：埼玉県学力・学習状況調査の分析による非認知能力と学力の関係及び学習意欲の視点における授業改善
- ★（株）LITALICO：ペアレントトレーニングの導入、個別のまなびプランの導入、スクールワイドＰＢＳの効果検証
- ★（一社）ＵＮＩＶＡ：ＲＴＩモデルによる効果検証【拡】
- ★ＩＧＳ（株）：AiGROWによる教育効果の可視化
- ★ハイラブル（株）：話合いの定量的分析と可視化
- ★Ddrive（株）：データベースのシステム構築とその分析

EdTech

テクノロジー活用による新たな学びの創造

戸田市版SAMRモデルに基づくICTの文具的活用と学びの改革
- ■学校と家庭等をシームレスにつなぐ学び等、新たな学びの推進

- ■全小・中学校にＩＣＴ支援員を配置
- ■全小・中学校でプロジェクタ型電子黒板を活用
- ■全小・中学校が「学習者用デジタル教科書実証事業」に参加
- ★Google：市内全児童生徒及び教職員にアカウントを付与、「Google Gemini」の活用研修の実施
- ★富士電機ＩＴソリューション（株）：ＩＣＴ総合サポートにより、コールセンター対応及び巡回支援員を全小・中学校へ派遣
- ★（株）ベネッセ：「ミライシード」の活用及びＩＣＴ教育支援員を全小・中学校に派遣、ＣＢＴシステム「テストパーク」の活用【拡】
- ★（株）LoiLo：「ロイロノート」の活用及びオンライン研修の実施
- ★（株）ジャストシステム：「スマイルネクストドリル」を活用した学校・家庭のシームレスな学びの研究
- ★（株）EdLog：採点支援システムの活用
- ★（株）COMPASS：「Qubena」の活用

PBL

実生活・実社会のリアルな課題を探究的に解決する学びの推進

- ■アイデア提案に留まらない「実行・検証」までを踏まえた実践型のＰＢＬを推進

〈ＰＢＬのプロジェクト類型〉
- ・学級／学校／地域の課題解決
- ・子供主体のルールメイキング
- ・地域連携／企業連携／市役所連携
- ・防災／安全／SDGs
- ・商品開発　等

- ■戸田市プレゼンテーション大会（戸田型ＰＢＬ発表会）の開催
- ★（株）リバネスキャピタル、インテル（株）フューチャーインスティテュート（株）、（特非）日本ＰＢＬ研究所：プレゼン大会の審査及び指導助言
- ★（一社）アルバ・エデュ：プレゼンに係る研修
- ■ＰＢＬに係る地域及び企業等との連携、カリキュラム・マネジメントの推進
- ★インテル（株）、（株）キャリアリンク：Skills for innovation 研修会の実施

STEAM 教育の基盤づくり
- ■ハイスペックデジタル工作機械（レーザー加工機）を全中学校に導入【新】
- ■STEAM Lab の設置
- ★ダイワボウ情報システム（株）：中村学園大学、インテル（株）、アドビ（株）、リコージャパン（株）（株）アバロンテクノロジーズ：STEAM教育のための共同研究
- ★コクヨ（株）、富士電機ＩＴソリューション（株）：ＰＢＬの学びを支える教室の実証

多様なニーズへの対応

誰一人取り残されない、一人ひとりのニーズに応じた支援の充実

戸田型オルタナティブ・プランの推進

不登校の未然防止、早期発見・早期対応、適切な支援のための選択肢
- ■多様な学びの場の拡充　■不登校対策ラボラトリーの取組深化
- ■社会に開かれたネットワーク構築　■WEBQUの実施【拡】
- ■戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」（小）「きゃんばすルーム」（中）の全小・中学校設置【拡】
- ★埼玉県教育委員会：不登校生徒支援教室「いっぽ」
- ★（特非）カタリバ：オンラインを活用したシェア型教育支援センター
- ★スタンドバイ株式会社：シャボテンログを活用した心の健康問題の早期発見・早期対応

〈不登校対策支援〉
- ★（株）学研エル・スタッフィング：教育支援センター「すてっぷ」運営
- ★（株）トライグループ：教育支援センター「西すてっぷ」運営（ひきこもりの児童生徒へのアウトリーチ型支援）
- ★跡見学園女子大学等：ピアサポーターの活用

〈日本語指導〉
- ■日本語指導担当教員、教育センター日本語指導員の配置
- ■（株）インバウンドプラットフォーム：高性能翻訳機の貸与

〈特別支援教育〉
- ■専門アドバイザーによる特別支援担当教員の指導
- ★（株）LITALICO：学校への訪問支援、共同研究
- ★帝京大学医学部：発達障害専門医による医療相談
- ★（株）学研教育みらい：多層指導モデル MIMの活用
  ビジョンアセスメントWAVESの実証

〈教育相談体制の充実〉
- ★東京メンタルヘルス（株）：全小・中学校にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置及び教育センターに教育心理専門員を配置

〈悩みの解消や深刻化の未然防止〉
- ★SNS教育相談の導入

〈学校管理職が学校経営を振り返る視点（物差し・レンズ）〉
- ■「戸田市版学校経営ルーブリック」の学校訪問等での活用

〈円滑な学校経営のための取組〉
- ★教育委員会ロイヤーによる研修や支援

学校等横断小中一貫カリキュラム

プログラミング教育
- ■小1～中3まで年間6時間程度の時数確保
- ★（株）ベネッセ：テキストの共同開発、教員研修
- ★フューチャーインスティテュート（株）：教材「Root」の共同研究

デジタル・シティズンシップ教育
- ■小1～中3まで年間3時間程度の時数確保
- ★フューチャーインスティテュート（株）：指導助言等
- ★弘前大学、スマートニュースメディア研究所：メディアリテラシー教育の実践及び研修、効果検証

英語教育
- ■小学校低学年からの実施、モジュール、CAN-DOリストの作成
- ■英検の受験費用助成（小6、中3）
- ★福島県西会津町：英語教育交流事業（ブリティッシュヒルズ）
- ★サイエイ・インターナショナル：英検3級対策講座

非認知（社会情緒的）スキルの育成

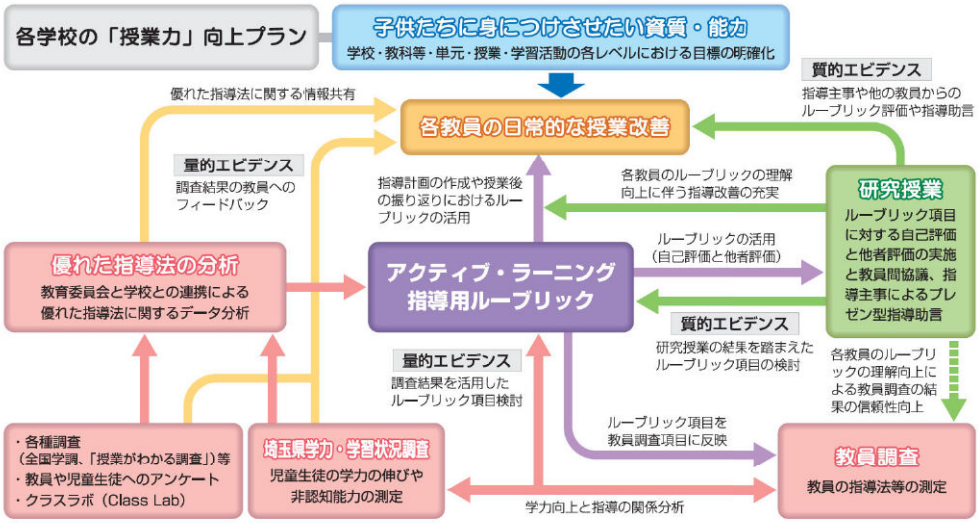
- ■「考え、議論する道徳」の推進
- ■「非認知（社会情緒的）スキル育成プログラム」の作成
- ■いじめ撲絶ピースプロジェクト
- ★（特非）Sesame Workshop：セサミストリートカリキュラムの推進
- ★（一社）UNIVA：学校インクルーシブ化、社会モデル授業の共同研究
- ★ＩＧＳ（株）：AiGROWによる非認知能力の測定
- ★アチーブメント（株）：自己肯定感向上に向けた特別授業

体力の向上

- ■運動部活動指導員・部活動サポート事業
- ■市長部局との連携：キッズ健幸アンバサダー事業
- ★（株）ルネサンス：教職員向け水泳実技研修
- ★西武ライオンズ、東京ヤクルトスワローズ、（特非）戸田スポーツクラブ、戸田中央メディックス女子ソフトボール部：体育の授業等への講師派遣
- ★ＪＲ東日本スポーツ（株）ジェクサーフィットネス＆スパ：水泳指導

アクティブ・ラーニング推進のための戸田型授業改善モデル

◆戸田型授業改善モデルのイメージ



◆戸田型授業改善モデルの5つのポイント

1 子供たちに身に付けさせたい資質・能力の明確化

★子供たちに身につけさせたい資質・能力を、学校➡教科等➡単元（題材）➡授業➡具体的な学習活動の各レベルにおいて明確化し、授業の目標を設定する。

2 ルーブリックの中核化

★アクティブ・ラーニング推進のための本市独自の指導用ルーブリックを、各教員の日常的な授業改善、研究授業、教員調査等のすべての取組をつなぐための拠り所とする。
★研究授業、授業研究会、校内研修等の取組を通じて、ルーブリックの理解（＝アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善についての理解）を効果的に深める。

3 各教員へのフィードバックの充実

★授業改善に向けた気付きを生む各教員へのフィードバックを重視する。
★県学調の結果などの量的エビデンスや、授業後の子供たちの振り返りや研究授業における自己評価と他者評価に基づく協議結果などの質的エビデンスの双方の視点を盛り込んだ効果的な情報の組み合わせによるフィードバック手法を検討する。

4 アクティブ・ラーニングへの理解を加速する質の高い研究授業

★研究授業において授業者と観察者がともにルーブリックを用いて評価し、その評価の違い等について協議すること、また研究授業と公開授業ともに指導主事からルーブリックに沿ったプレゼンテーション型の指導を行うことで、アクティブ・ラーニングへの理解を一気に深める質の高い研究授業を実施する。

5 エビデンスベースでのルーブリックの継続的改善

★教員調査にルーブリックの項目を盛り込み、県学調による学力の伸びとの関係を分析（量的エビデンス）。また、研究協議等における評価シート等のデータを蓄積（質的エビデンス）。これらを基に、ルーブリックの項目について検証・改善を行う。

◆アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

授業改善モデルの軸とする「アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック」は、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行う際のチェックポイントをルーブリック形式にまとめたもの。今後も様々なエビデンスに基づき継続的に改善する。

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックより作成したチェックポイント表（令和7年度版）

●目指すべき目標・評価規準の設定等

児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか
- □指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
- □本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- □児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

●主に主体的な学びの視点

児童生徒が自分の考えを表現することができていたか
- □本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- □自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒への）支援方法を準備し、実行することができたか。
- □自分の考えを表現することができるように、教員の工夫・適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
- □学習活動は、目標の達成につながっていたか。

●主に対話的な学びの視点

児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか
- □児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
- □児童生徒の考えを広げ深められるよう、教員（具体物・ＩＣＴ等）を工夫し用いていたか。
- □目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化（ホワイトボード、ＩＣＴ等）できたか。

●主に深い学びの視点

児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか
- □児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- □児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- □児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化（ホワイトボード、ＩＣＴ等）できたか。

●学びの評価・振り返り

児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか
- □評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ＆レスポンスする）ことができたか。
- □目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- □児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

（注）ルーブリックは、平成28・29年度の文部科学省委託事業『教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究』を通じ、本市独自で作成。アクティブ・ラーニング研究員、学校管理職、研究主任等が特色ある7つの授業について観察、評価、協議を行うことで作成された約100枚の評価シートから、教科横断的かつ重要な指導要素を段階的な協議を経て抽出した。